

2003. 3/1 ~ 2

# 扇ノ山 山スキー

天候：小雨 / 吹雪 / ガス / 晴れ

気温：-3° ~ 7°

テーマ：懸垂下降、滑落停止訓練

地図：1/25000 扇ノ山（南西・南東）

メンバー

石野美輝郎 53 才

横小路利朗 53 才

大塚賢一 48 才

大本誠一 23 才



スコップ、赤布 etc いつもフル装備の私



朝霧漂う山頂



四方が窓の快適小屋



昨日の雨がウソのようだ！

## 1日 小雨 / ガス / 雨 / 雪

### 9:30 鳥取県姫路の集落到着 霧雨 シール装着

姫路のポプラを6時半に集合して朝食を済ませる8時頃空が泣き出してきた。今日の天気は南部が中心に本降りになるとのことだ。山溪の氷ノ山天気予報では今日は小雨から雪、明日は朝から晴れの予報が出ている。

これは今日の登り4時間ほどを我慢すれば快適な無人小屋でゆっくりとくつろげることが出来るし、こんな日にまさか誰も登ってこないだろうと想定しての行動に及んだ。

戸倉峠を過ぎた辺りから雨も本降りから小雨になり姫路のドン止まりの集落につくころには殆どやんでいた。しかし、道中はこの1日がヤマメの解禁日とあって釣師が雪解け水流れる沢に至る所に竿を出している、やはり本格的な遊び人は天候など気にしない様子である。

### 10:05 510m 姫路集落スタート

天気は小雨。集落の道路は雪で閉ざされていきなりにシール歩行が可能であった。



快適な？急斜面ををシール登行

### 11:35 835m 登山口分岐

林道シール歩行1時間半でU字に曲がった扇ノ山登山口との出合いである。ここから林道を夏道通りに登って行っても可能なのであるが、やはり雪の付いているこの

季節、ルーファイして稜線に取り付いてショートカットして行くのが楽しいのである。

この分岐の眼前に迫る素晴らしく大きなカールを登り詰めることにする、しかし稜線直下では雪も腐って小さなクレバスが頻繁に出てきてヒヤヒヤものであった。

### 12:24 1050mピーク

あれっ？、スキーのトレースがある。先週の石野氏と横さんが登ってきたルートに出てしまった。よく地図確認をすると予定のコースから一つ尾根を間違ってしまったようだ。ここから見るとあっちの稜線のほうが幾分ブッシュが少ないように見受けられる・・・次回の教訓にしよう。

### 12:40 1116mピーク

このピーク地点で予定の稜線と交わっている所である。風が強くなってガスが出てきた、まあこの天候では1000mを越えるとかんなもんだらう、幸いなことに雨が止んできた。

### 13:09 1260m 夏道合流



小屋でくつろぐ

風が東の谷からガスを運んできて少々視界が悪くなってきた。雪庇真下にはすごいクレバスが口を開けている。扇ノ山はもうすぐそこに見えるはずである。

### 13:35 1310m 山頂小屋

入り口が雪で埋まった



プルーゾックで攀じ上がる

山頂避難小屋に無事到着。

1200 m地点からのなだらかな稜線からは視界も50mほどになって風も強く吹雪混じりであったが、2/1の氷ノ山巖冬期に比べるとどうと言うことはなかった。

小屋でくつろぎ濡れ物を乾し（雨を想

定してハンガーを持ってきているのだ！）、天候もままならないのでゆっくりと昼食タイムに興じる。今日はそのためにビールや肴、ハムステーキなどを盛りだくさんに荷揚げしているので食べるのには事欠かさない。

今回は懸垂下降と滑落停止訓練をテーマに上げている。滑落停止は明日に天気が回復してから行うことにして小屋内で8環とATCによる懸垂下降を梁を利用して行うことにする。またプルーゾックでロープを登って上がる練習もする。

色々とロープワークの講習もしているといつの間にか外は雨が雪に変わっていた・・・明日はパウダーだろう。

## 22:00 就寝

快適な小屋であるので時間の経つのも早いものでアッと言う間に22時になっていた。

私は巖冬期を過ぎたので今日のシュラフはペラペラの夏用である。

2日 ガス/晴れ 今日最高の天気だぜい～(´\_`)



朝一のパウダーランを楽しむ

## 6:30 起床

気温は $-1^{\circ}$ を指していたが夏用のシュラフでも全く寒く感じられなかった。まあ昨年に御嶽山はテント内で $-7^{\circ}$ で寒くなかったのだから当然ではあるが・・・

窓の外は昨晚の内にエビの尻尾が張り付きブナの木

は真っ白く雪化粧をほどこしている。

雪はやんでいるが少々ガスっているのでゆっくりと朝食タイムをとる、小屋泊まりはこれだからやめられない。

## 8:25 1310 m 山頂東面滑降

今日のメインは山頂から大ゾッコへ、そこから西斜面を滑る計画である。



前に見えるの大ゾッコに行ってくるぜい！

ザックをデポしてみんなは軽装であるが、私は万が一の為にサブザックにツェルト・ザイル・エマージェンシー・予備着とピッケル・ハーネス装備である。

ラジオの天気予報では完全に回復傾向にあるので、このガ



ブナに抱擁してパワーをもらおう

スも山頂付近だけであらうと踏んでシビレを切らせて早速に薄モヤにエビの尻尾が揺らぐブナ林の間をかいぐって最高のパウダーランを1本楽しむ。この斜面は私の最もお気に入りでもある。沢底まで滑り込んでシールで登り返しているもの

すごい勢いで雲が流れているなあと思えば素晴らしい青空が現れ出てきた。地元のスノーモービラーもブンブン音を出して楽しんでいる、しかし彼らは急斜面は来られない。

10:14 1273m 大ゾッコ山頂

山頂から真北への稜線づたいに若いブナ林の間を滑降して少々登ると大ゾッコにたどり着く、約1kmほどであるが、太陽に照らし出されて木漏れ日浴びての散策滑りはなんとも言いがたい光景である。

山頂から西方面の1198m地点へ、そこから真西へとブナの巨木帯をポールに見立てての滑降は結構斜度も手伝ってテクニックがいるのだがこれがまたなんとも言えないくらいに素晴らしいのである。

10:50 1070m ★ハプニング発生！！★

朝一では今日は全然転げる気がしないって言っていた大本が勢い余ってついにブナに激突！、何と相当に力が加わったようで流れ止めのバックルが破損して、スキー板が一本急な北斜面へまっすぐにトレースを引いているのではないか！・・・大本は板がてっきり埋まってしまったと思いこんでいた様子であった。

先を滑って行った石野氏に笛で「止まれ」の合図を出す。地図で確認すればたかだか400mほどので沢に突き当たっているが下



快適に飛ばす大本

が見えないほどの急斜面で雪崩れを誘発しそうな斜面である。しかし板を取りに行かねばならないのでそのトレースめがけて私が谷に突っ込んで滑っていく、するとなんと！、200mも降りない内に板が見事に雪面に突き刺さっているで

はないか！。運よく雪面から出ている小枝でジャンプしたらしい。

しかしここから板を引っ張って登り返すにはあまりにも急すぎたおまけに昨夜に降った雪で足元がおぼつかないので大本をここまで降ろすことにする。真上を降りて来れば雪崩れを誘発のおそれがあるので一つ隣の小尾根をピックストックを使いながら尻制動で滑るように

誘導する。なんとか合流し細引きで流れ止めを作り急斜面をカニ歩きでトラバース気味に登り返して無事に石野・横さんに合流する。

11:15 905m 登り返し

下へ行くほど雪も腐ってきたのでここからからシールで登り返しである。ブナ



巨大雪尻の上をシール登行



山頂から氷ノ山が見える

にこびりついた霧氷が太陽に熱せられて霧氷が舞い散る中を登っていく。

12:10 1310m

### 扇ノ山山頂

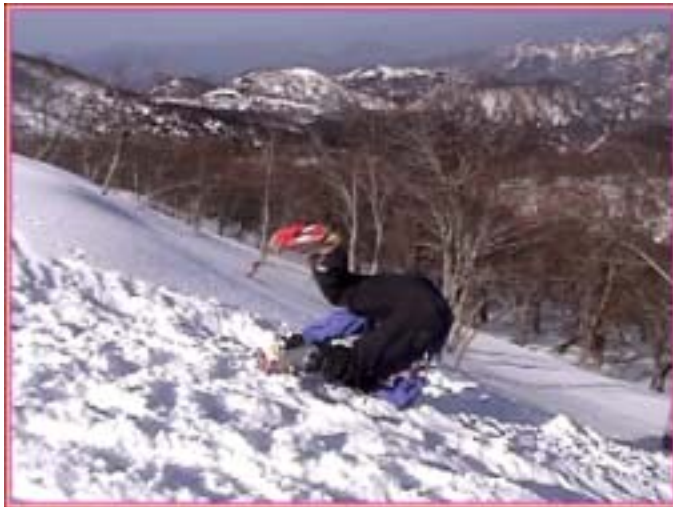
昨日とは打って変わっての天気です。素晴らしく晴れ渡り氷ノ山も見渡せる。

山頂付近から西へ

と張り出しているブナ林の小尾根を3本も滑ると足も程良く張ってきて小屋で軽く昼食を済ませる。

### 14:30 滑落停止訓練

山頂東0面で滑落停止を行うが雪があまりにも上天気で緩みあまり滑らなかったが、一年生の大本はだいたい飲み込めただろうか？、マニュアルはあってもなにはともあれ初期停止が一番なのであるから体



滑落停止訓練

が受け身を覚えているようにピッケルやピックストックをいち早く出す事である。

### 15:25 下山開始

昨日登ってきたルートを滑っていく。

### 16:09 ルート間違い

1150m地点で西に折れなければいけない尾根をつい斜

面がよく北の尾根に滑りすぎてしまった。こんなに長く急な斜面を登ってきた記憶は無いなあと思っていたら、案の定石野氏が下から「間違いや〜」と。ふたたびシールを付けて200mほど登り返す。上から滑ってくれば間違いやすい所である、赤布を巻き付けておく。

### 16:52 1116m P地点

少々登り返して再び小ピークへ。ここから南西に延びる尾根を滑り込んでもいいのだが、来たルートを従順に下っていく。

### 17:10 1050m

さあ、やって来ました。今日の最大のメインの斜面である。昨日登ってきた時にここを滑り込みたいと思っていたすごいカールである。北アにも引けを取らないほどの雄大なカールである。

切り込み役の私が先陣きって飛び込むが・・・雪がわる〜い、べしゃった腐れ雪である。スキーカットで雪崩れを誘発している・・・急遽トラバースで石野氏と尾根に回り込む。案の定大本と横さんはやばい所で転倒して四苦八苦している。

逆の北斜面はいいかも？・・・と突っ込むがここもやはり一緒であった。やむなく狭い小尾根を直滑&横滑りで乗り切り、最後の斜面へは



北アにも負けない壮大なカール

筐の間の50cmほどの雪面を急滑降で滑り込みカールに出てジャンプしようとストックを刺し、板を踏み込むと同時に雪に埋まってしまい大転倒してしまった。ブスブスの雪である。大本と横さんは往生しっぱなしであった。結局この快適な斜面？に手こず

りみんなが無事に林道に着いたのは5時半を回っていた。

### 18:06 車デポ地点着

林道はこの前の東山とは違い手漕ぎしなくスピード制御しなければならぬほど快適であったが、所々に昨日の雨でクレバスが開けていた。もう15分も遅ければヘッドライトが必要なところであった。遊んでいると一日が過ぎるのは早いものである。

PS.

山頂から大ゾッコの稜線は西へ東へと短くはあるが幾らでも滑り込める快適な斜面が広がっているのもまだまだ遊べるだろう。

いつも元気な大本も今回は少々へばってしまったようだ、山スキーは自然と遊ぶスポーツの中でもレベルは高いほうなのでまだまだこれから経験を積んで楽しんでほしいものである。また空身での滑降でも細引き携帯と結び方はマスターが必要である。



山頂小屋東斜面



● また来るぞ〜い ●